

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）
（多施設共同研究用）

西暦 2018年 10月 23日作成

研究課題名	腸閉塞全国集計：腹腔鏡手術と癒着防止フィルムは腸閉塞を減少させたか？
研究の対象	2012年4月から2014年3月までに消化器手術の手術を受けた患者さんと2015年4月から2018年3月までに腸閉塞の治療を受けた患者さん
研究目的 ・方法	<p>研究の目的： 腸閉塞は消化器手術を受けた患者さんの5%程度に発症すると考えられています。腹腔鏡手術を行ったり、手術時に癒着防止フィルムを用いたりすることで、腸閉塞の発症頻度が低下することが期待されておりますが、その効果は明らかにされておられません。本研究は腹腔鏡手術や癒着防止フィルムが腸閉塞の発症率減少に寄与したかどうかを明らかにすることを目的とします。</p> <p>研究の方法： 横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センターにて2012年4月から2014年3月までに消化器手術を受けた患者さんと、2015年4月から2018年3月までに腸閉塞の治療を受けた患者さんについて、以下の情報を収集、使用します。 試料は用いません。 情報：年齢、性別、疾患名、術式、腹腔鏡手術が行われたか？、癒着防止フィルム使用の有無、等</p> <p>研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報を使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。</p>
研究期間	西暦 2018年 12月 7日 ～ 西暦 2021年 6月 30日
研究に用いる 試料・情報の 種類	<p>横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センターにて2012年4月から2014年3月までに消化器手術を受けた患者さんと、2015年4月から2018年3月までに腸閉塞の治療を受けた患者さんについて、以下の情報を収集、使用します。 試料は用いません。 情報：年齢、性別、疾患名、術式、腹腔鏡手術が行われたか、癒着防止フィルム使用の有無、等</p>

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

外部への 試料・情報の 提供	上記の情報は、日本腹部救急医学会に電子的に配信された後に研究責任機関である日本医科大学病院へ提供されます。これらの情報は、セキュリティ管理された日本腹部救急医学会が管理するサーバーへ電子的に収集されます。各研究機関から収集された情報を用いて、研究グループが腸閉塞の実態調査を行います
外部からの 試料・情報の 取得と保管	ありません
研究組織	研究代表機関：日本医科大学付属病院 消化器外科 研究全体の責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 准教授 山田 岳史 その他の共同研究機関：兵庫医科大学 下部消化管外科、獨協医科大学 第一外科、 帝京大学ちば総合医療センター 外科、埼玉医科大学総合医療センター 外科、 帝京大学 上部消化管外科、順天堂大学 下部消化管外科、関西医科大学 外科、 山梨大学 第一外科、福岡大学 消化器外科、大垣市民病院 外科、 神栖済生会病院 外科、日本医科大学千葉北総病院 外科、 日本医科大学多摩永山病院 外科、日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター、 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター（研究責任者）湯川 寛夫 電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-261-9492</p>	